

平成 28 年度 鳥取・島根広域連携協働事業 公開審査会

平成 28 年 6 月 28 日 鳥取県西部総合事務所 第 5 会議室

【審査結果発表】

<南木委員長>

両団体のみなさん、丁寧なプレゼンテーションありがとうございました。

委員 3 人の審査の結果、最初に発表された「農業の未来へつなぐプロジェクトチーム」の総得点は 99 点です。2 番目に発表された「海藻資源の循環により結ばれる地域づくり事業共同体」の総得点は 120 点です。

(この間、採択条件を説明。)

この結果、「海藻資源の循環により結ばれる地域づくり事業共同体」の提案事業を採択しました。

【各審査委員の講評コメント】

<金野委員>

まずは「海藻肥料を活用した里山・里海の再生事業」を提案された「農業の未来へつなぐプロジェクトチーム」ですが、コメント（質疑応答）で言わせてもらったのですが、循環という意味では農業ですね、活性化してなおかつ中海を保全するという事でテーマが明確であったかと思います。今、目指されている目標としては素晴らしいとは思っていますが、ただ一方で、関連というか循環するという流れがあまり見えにくいという事があったという、見えにくいという言い方が多分正しいかと思うのですが、求めていることは私も理解できたのですが、循環をしているという形をもう少し見える化してほしいということがございます。特に、「中海の未利用資源である海藻の活用による地域づくり」というテーマにどれくらい即しているかという意味では、後でプレゼンした「海藻資源の循環により結ばれる地域づくり事業共同体」の方がテーマには即していたかなと感じました。ただ、他方で、「農業の未来へつなぐプロジェクトチーム」の肥料は素晴らしいと思っておりますので、今回はこのような結果になりましたが、ぜひともそれを進めて循環を作るしくみを整えていただければと、そのために力を尽くしていただければなと思っておりました。

次に「藻が〜るー鬼太郎もびっくり！ご縁を結ぶ中海のお・ご・の・りー」です。「海藻資源の循環により結ばれる地域づくり事業共同体」ですが、こちらは、私ではないですがコメントにありましたとおり、循環を目指されたという意味で、設定されたテーマに関してより正面からアプローチされたという評価をさせていただきたいと思っております。また、様々な社会課題に対して積極的にアプローチされたという非常に素晴らしいとは思っておりますが、他方、かなり多い課題に対してどこまで達成を目指されるかというのは、ご説明もあったとおりある程度選別された方がよろしいんじゃないのかなという風には思いました。また、私もコメントさせていただいたように、やはり後継者の問題とか環境保全の問題というの

平成 28 年度 鳥取・島根広域連携協働事業 公開審査会

平成 28 年 6 月 28 日 鳥取県西部総合事務所 第 5 会議室

は、それを継続する方がいかに努力をされるか、継続する仕組みを作られるかというような決定的な問題ではあるし、逆に言うとそれが非常に難しい問題でもありますので、そういう面も特に現在考えられている案に肉付けされて、より継続的な形で進められるようなプランをこの一年間を使って作っていただければと思います。

<天満委員>

最初にプレゼンした「農業の未来へつなぐプロジェクトチーム」の内容も、新たな有機肥料の開発とかそういう所には非常に先進性を感じますし可能性も感じました。有機農法、これからオーガニックの方が主力になってくるだろうということで、非常に楽しみな可能性を感じるというところでは非常にいいプレゼンだったなという風に思っております。あとは、二つの団体が一緒に活動することによってさらにどういった効果があがるのか。そういった所がもう少しお示しいただけたらという部分もあります。内容的には非常に素晴らしいものでしたが、どちらかというとプレゼンテーション力といいますか、見せるという部分では、後に発表した「藻が〜」の方が非常に優れていたかなという風に思いました。

今回採択された（NPO法人）自然再生センターさんと（社会福祉法人）養和会さんの活動ですが、やはり検証とか科学的データを集めていただけたらと思います。システム自体はすでに構築されつつあるということでしたが、今回のプレゼンでは事業概要という要素が多かったのでそのあたりを精査して限られたスケジュールの中でできる所を見つけていただきたいと思います。

<南木委員長>

総括的なコメントになるかどうかわかりませんが、まず未来守りネットワークから提案していただいた事業ですが、地域の課題をビジネスの手法で解決して行こうという、いわゆるソーシャルビジネスということでは非常に先進的な考え方だと思います。今後民間企業も巻き込んだ形で地域の課題を解決して行くというのが大きな力を発揮していくような時代が来るだろうと。そのさきがけのような提案、計画だろうという風に思っております。眞知子農園のこれまでの事業、活動についても本当に NPO さんの模範となるような情報発信をきちんとされて素晴らしいことをやっておられますので、ぜひぜひこれからもがんばって続けていただきたいと思います。

私が今回判断するにあたって考えたのは、中海がラムサール条約指定の湿地になった。これは当然に中海の自然を保全しながら懸命な利用を考えていく、そういう努力を両県や両県民は求められているのだらうと思います。まず中海の自然を壊さない、再生していくということを頭に入れて、どう活用していくのかということが求められるのだらうというように思います。そういう意味では今回の募集要項の中に「中海の未利用資源である海藻活用による地域づくり」という県政課題を掲げられた県の方にも、やはり、課題の提案の仕

平成 28 年度 鳥取・島根広域連携協働事業 公開審査会

平成 28 年 6 月 28 日 鳥取県西部総合事務所 第 5 会議室

方に少し工夫があるだろうと思います。私は県の立場に立って、二つの団体のどちらが県にとって都合がよりいいかというような考えではなくて、県と NPO とが一緒になって中海の問題を解決して行くのにどの事業がいいか。場合によっては NPO の方から県の考え方を当然修正させていくというようなことも必要でしょうし、中海の自然環境の微妙な変化で事業を柔軟に変えていくということも必要だろうという風に思います。そういった観点から評価、判断をさせていただきました。それぞれ、皆さん方これまでもがんばってきておられます。今後も本当に頑張っていたきたいということを申し上げて総括的なコメントに代えさせていただきます。